

日本のわらべ歌や伝承遊び、行事のすすめ

アメリカに住んでいても子供達には「ぞうさん」や「げんこつ山のためきさん」など、当たり前日本の曲や遊びを知っていてほしいと思いませんか？日本に住んでいれば、幼稚園やまわりの環境から自然に歌や伝承遊びに触れる機会があり、親ががんばらなくてもいつの間にか子供達は普通に日本人なら誰でも知っているだろうと思われる歌は覚えてしまうものです。

でも、ここはアメリカです。親が意識して子供に与えていかないかぎり、覚えるチャンスはないのです。幼児期の今ならそれにふれる機会さえあれば、子供達は当たり前その曲を口ずさむようになります。私達がいまさら他言語の童謡を聞かされてもそれを覚えられないのと同じように、もう少し大きくなるとその子にとって馴染みがないと、日本の童謡をかけていても、「違うのにして」といわれてしまいます。

私は今まで普通に日本語は話せるけれども、「お寺のおしょうさん」や「かごめかごめ」などの手遊びや伝承遊び、「チューリップ」などの歌を「なにそれ？全然きいたことない」と言った小学生を沢山知っています。「いっすんぼうし」を「帽子の話なんて知らない」と言う子供にびっくりするお母さんを何人も見てきました。その子達のお母さん方は「もっと小さい時にいろいろ聞かせたり、遊んだりしておけばよかった」「そんな当たり前の話は知っているものと思っていたけど、よく考えてみると、読んであげたことがなかったかもしれない」とみなさん口をそろえて言っていました。親が与えるものを無条件で一緒に楽しめるのは、幼児期だけです。日本にいれば、テレビや幼稚園などから当たり前に入ってくるものが、こちらでは親が意識して与えていかなければ子供達は日本の文化と出会うチャンスがないのです。忙しいと時間はあっという間に過ぎてしまいます。幼児期だからこそ、運動会や七夕、お餅つきや節分、ひな祭り、子供の日、そんな日本の行事を親子で楽しむ事が出来ます。わくわくではそんな日本人として知っておいてほしいなと思う事を沢山提供しています。今しかないこの時期を親子で一緒に楽しみましょう。